

第2、3合併号・1996年4・5月

おのぼりさん都へゆく 涙、涙のバンコク滞在記

ネパールには生活物資が少ない。「特定不健康地」とかで金銭的な補償はされているものの、買いたいものが全然なくて、質も悪くて辟易している。そこで事務所では、毎月ローテーションを決めて、タイのヤオハンにJICA関係者の生活物資の買い出しに所員が出張している。3月は私が当番となり、美澄同伴の許可をとり、16日から20日までバンコクに行ってきた。

カトマンズに住んで5カ月、この生活に慣れてしまうと、バンコクで見えるもの、聞くもの、食べるもの全てに感激しまくりだった。レーダー管制が未整備で日が暮れると飛行機が着陸できなくなるカトマンズ空港に慣れてしまうと、夜でも明るく賑やかなバンコク空港は感動モノだった。未舗装のデコボコ道を時速30km以下で走る20年前のカローラに慣れてしまうと、高架のハイウェイを時速100km以上で飛ばす最新型の車は感動モノだった。幅4m以下の路地でトラックとすれ違うのに慣れてしまうと、幅40m以上の公道を埋める噂に聞こえたバンコクの交通渋滞は、ある意味では、感動モノだった。

日系のデパートは、まるで日本のデパートだった。日本語はおろか英語もわからぬ店員には困った（一般的にバンコクではタイ語以外殆ど通じない）が、そんなことはお構いなし、私達は死にもの狂いで買い物に遁走した。物資が豊富過ぎて選ぶのにも困った。「迷ったら、買え。」私が為替ディーラーやってた頃の標語を思い出した。またあのカトマンズに戻るのだと考えたら、迷ってなんかいられない。本もCDも靴も食器も全部買うのだ。まさにショッピングパラダイスう！！

そして、買い物に疲れたら、おいしい海鮮料理が待っている。「わ〜お、北京ダックよ！」（美澄談）本当においしい中華なんてカトマンズでお目にかかったことがない私達は、食材の豊富さにも感激したのであった。マックやケンチキやセブンイレブンだってある。お寿司やお刺身だって、そして牛肉だってある！もはや私達は完璧なおのぼりさんと化した。観光なんてそっちのけで、買いまくり食いまくったのだった。

でも、冷静に考えるとタイもたいへんだ。タイ語以外はまともに通じないし、車の運転は荒いし、JICAの事務所なんて、毎日午前零時まで仕事やってるそうだし、休日出動もざらだとか。日中35度を超す蒸し暑さでは、まともに外も歩けない。暫く留守にしている間に、カトマンズも随分暑くなっていたが、湿度が低いためとても爽やかに感じた。排ガスと土埃は相変わらずだが、それでも、私達は口々に言ったのだった。「やっば、ネパールはいいよね〜〜。」住めば都ってことですかあ？

最後に、バンコク滞在中は、三鷹のお父さんお母さんの古くからのお知り合いである中西さんご夫妻に大変お世話になりました。特に、美澄が5歳までを過ごしたバンコクの縁の場所をご案内いただけただことにとっても感謝いたしております。本当に有り難うございました。（浩司）

コテツが我が家にやってきた 私達をとりまく人々？（1）

春の日うららかな3月27日（水）、日本に帰られる三菱商事の植川さんから家財道具と一緒に、コテツを引き取りました。コテツは3歳のオスのゴールデンリトリーバー犬（ちょっとほかの血も混じっている？）です。

彼を連れて来る時、植川さんから「車に乗るとちょっとヨダレを垂らすけど大丈夫ですよ。」と言われ、出発すると・・・「ポタッ、ポタッ」。見るとコテツの口からヨダレが滴り落ちていたのではないですか！コテツが暴れないように抱えていた私は、ヨダレ攻撃にあい家に着く頃はヨダレでビショビショになっていました。しかし、大量のヨダレを垂らすくせに、彼は車に乗るのが好きで、隙あらば車に乗り「ボクは運転手だよ〜」と言わんばかりに運転席に座ります。

また、彼は体が大きいだけに、大食いです。1日2食合計でドンブリ3杯ぐらいのご飯を食べているにもかかわらず、雀を追いかけては食べ、石鹸も好きで、目に付くところに置くとペロッと食べてしまいます。なぜ石鹸を食べるのか解りませんが、ネパール人のドライバーによると、「石鹸で胃の中がきれいになるからいいんだ。」とまことしやかに言っていました。本当でしょうか？胃をきれいにするために、草を食べるのは知っていますが（事実コテツは「牛」と皮肉られるほど草を食べます。）、なんで石鹸まで食べるのでしょうか？餌をちゃんとあげていないわけではないのに・・・理由をご存じの方は教えて下さい。

しかし、彼を見ていると全く飽きません。これからも話題を色々提供してくれそうです。なによりもとても良い番犬です。これからもよろしくね、可愛いコ・テ・ツ君。（美澄）

いよいよ来た、わしもジアルジアじゃ！！

ネパールが不健康な土地だという話は別項で述べた。寄生虫や伝染病、水から来る下痢、この地を訪れる異邦人の多くが必ずやられる病気は数多い。その中で、我々が青年海外協力隊員が最もかかりやすい病気は何かご存じだろうか。それは「ランブル鞭毛虫症」、またの名を「ジアルジア」という。以下がその症状である。

- ①症状：急性の場合、卵の腐った様なげっぷがあり、泡の多い水中に浮く便、腹痛感、水がゴロゴロと鳴っているような腹部の不快感がある。慢性では、軟便と下痢を繰り返し大して体重の減少もなく食欲もある。通常は体にあまり害はないが、放置しておくとう胆道に入って胆膵炎、肝膵炎、虫垂炎などをきたす。
- ②症状がない場合：腸管内下降に嚢子を保有しており、蛋白質の多い肉・魚などの食品を食べると嚢子は栄養型になり、あばれだして下痢症状を引き起こす。
- ③感染経路：嚢子の経口感染であり、下痢をしている時より日常の排便後の手洗いが問題（本当かよ!？）となります。肛門→手→口の自家感染ということも考えられます（ちゃんとやってるよお!）。

まあ、感染経路については頷けない部分もあるが、症状からいって、ジアルジアに間違いない。ついでに言うと、げっぷだけじゃなく、屁もよく出る。3月31日ヒンドゥー教徒の目を盗んで牛肉を食べたのがいけなかったのか、翌朝いよいよ下痢が襲ってきた（断っておくが、巷を騒がす狂牛病ではない）。でもショックはそれほどなくて、私にもちゃんと来たのねと胸を張りたくらいだ。

今のところ薬で押さえつけてはいるが、今後は仲良く付き合っただけでゆかねばならない。肉や魚がダメなら、より菜食に走るまでである。ますますダイエットできそうで楽しみである。トホホ。（浩司）

晴れたら傘！ お天気雨ではないよ～

ネパールで不思議な事は幾つかありますが、これもその一つ。晴れの日の傘。何で雨も降っていないのに傘をさすのか、3月後半から急に日差しも強くなり暑くなってくると、多少の雨では傘をさしているのを見たことがないのに、道行く何人かが傘をさしているのです?! 先日見た約80年前の写真でも晴れているのに傘をさしていたので、これは昔からやってきたことのようにです。

こちらは湿度が低いので、日本のようにジトツとした暑さではなく、日差しさえ避ければ涼しいのです。このため、日焼けしないためではなく、常に日陰にいられるように傘を持ち歩いているのです。でも、黒い傘はかえって熱を集めるような気がするけどな～。私も今度試してみようかしら。（美澄）

※この目的のためかどうかは知りませんが、美澄は最近傘を買いました。（註：浩司）

気が付けば最終走者 ポカラ新年ハーフマラソン

私のマラソン馬鹿はネパールでも治っていない。私以上のおたくである協力隊の禿下君に誘われ、4月13日のネパール暦の元旦に、観光地ポカラで西部地域スポーツ事務所主催のハーフマラソンがあると聞き、出場してしまった。参加者は殆どが軍が警察の関係者で、外国人は禿下君と私の他に、小林隊員、つい勢いでエントリーしてしまった武田隊員（彼もジアルジア持ち）の日本人4人だけだった。

予算不足、人員不足が当たり前のこの国のこと、参加料がただの大会だからあまり期待しないでと禿下君に言われていたが、なんとゼッケンとランニングシャツが配布され、「全員これ着て走るように。」と言われた。給水用のミネラルウォーターがあったのにもびっくりしたが、ランニングシャツのプリントにフェワ湖畔のBeam Beam Restaurant とあり、スポンサーがあったので納得した（ポカラを訪れる人には是非薦めようと思う）。

参加者たった40名でスタート。ピストルと同時にみんなダッシュし、100m走みたい走り方をしたので驚き、不安に陥ったが、2kmも行かぬうちに次々と脱落、先のことなど全然考えずに取りあえず突っ走ってしまうのはまさにネパール人の行動パターンそのままである。私は、最下位で後ろにバイクが着いてくれるなら道に迷うことはないだろうと開き直り、観光気分マイペースで走っていた。そこに武田君が脱落して来た。このまま追い抜こうかとも考えたが、このままだと彼も完走できないかもしれない、完走して良い思い出を作ってほしいと思い、行けるところまで一緒に走ることにした。私は腰のホルダーに水筒を携えて走っていたので、途中何度も水を分け与え、声をかけて、歩くことなく最後まで走りきった。タイムは1時間45分。絶対に距離が3km程度足りない! ま、これもネパールらしいといえればネパールらしい。

禿下君は6位入賞で賞金500ルピー（約千円）を獲得、武田君と私は、途中追い抜いた全員がリタイアしたため最下位26位27位だった。生まれて初めての最終走者だったが、気温30度を超えた過酷なマラソンだったのは確かだ。歩かず完走できたのは胸が張れる。日本人参加者が全員完走、特に武田君が最後まで走れたことは我がことのように嬉しかった。表彰式では、完走者全員に主催者から表彰状が手渡された。最終走者だった我々にも、完走した皆や珍しいもの好きのギャラリーから盛大な拍手が送られ、幸せな気持ちになった。完走した全員が勝者であると実感できる表彰式で、ネパールの人々の心の温かさがにじみ出た素晴らしい大会だった。打上げのサンミゲルビールがおいしかった。

最後に、沿道で声援を送ってくれた美澄に感謝したいと思う。本当にありがとう。（浩司）

私の仕事紹介（その2）「許認可手続」

3月のある土曜日の夜の出来事。美澄とテニスに行き帰って来た私は、事務所のローカルスタッフから1本の電話をもらった。「今日帰国予定だった〇〇専門家がビザが切れてて出国できなかったそうです。」私はチームを組んでいる事務所のケシャブ所員と連絡を取り、翌日休日出勤することになった。ビザ延長の書類と専門家のパスポートを官庁に入れるのはケシャブさんがやるけれど、それに必要な事務所のレターには日本人スタッフの誰かがサインしなければならないのだ。

JICAが外国で業務展開をしてゆく以上、その国の制度上様々な許認可手続が発生する。赴任された専門家のアナカン荷物の免税手続から、自動車の車両登録や運転免許証発行、ビザの延長（こちらは最長1年しか延長が効かない）、携行機材や供与機材の輸入許可、業務上トレッキングパーミット発行等々、数え上げたらきりが無い。また、許認可手続の所要日数を考慮に入れて前広に依頼をいただける専門家ならまだしも、大体がぎりぎりになってから気が付くパターンで、その度にケシャブさんを官庁に走らせて、半日くらいつぶされることが多い。

ケシャブ所員は41歳。JICAに勤めて20年近い超ベテランである。古くから築き上げてきたコネを利用して、正攻法では何日かかるかわからない手続を1日で済ませてしまうのがうまい。日本語もペラペラで、それだけに誰もが彼に頼らざるを得ないのが現状だ。

私が昨年10月に着任した時、彼が3週間の長期休暇を取っていたために許認可手続が滞り、結構大変な思いをした。これに懲りて、私はもう一人の相棒、ネウバネ所員（31歳）に仕事を覚えさせようとしたが、ケシャブさんは「この仕事は顔つなぎが大切だから。」と言ってなかなか移譲する気配がない。この国に限らず、自分の仕事を他人に教えることを「自分の仕事が奪われる。」と解釈する人は多い。誰でもバックアップできるよう業務はマニュアル化すべきだというのは、日本的考え方に過ぎないのかもしれない。

幸い、上述の専門家のビザ延長は日曜日の午前中に終了、昼過ぎ発のタイ航空便のチケットも確保でき、同専門家夫妻は笑顔で帰任された。地味だけれど、専門家からは一番感謝される仕事である。ケシャブさんに感謝！！

(浩司)

ネパール人の相槌 「イエエ」は「イエス」です

よく「所変われば品変わる。」と言われますが、「イエス」「ノー」の表現方法もここネパールでは、日本と違います。具体的に言うと、「ノー」というときは、同じ様に首を横に振ります。そして「イエス」の時にも首を横に振るのです。正確に言えば、首を45度斜めに1回傾けるのです。初めは奇妙に映っていたこの仕草も、ここで生活するうちに慣れてきて、最近では自分でも知らないうちに同じ相槌をするようになっていました。

この相槌による失敗談はいくつかありますが、先日、市場でバナナを買おうと見ていたら、お兄さんが「美味しいよ。買っていきなよ。」と一本むいて見せてくれたのですが、それでもどうしようかと、「う〜ん」と首を横に曲げるとそのお兄さんは、私の動きを見て「イエエ」ととり、袋に詰め「30ルピー」と言ってきました。（本当は違うのに〜）

また、タイへ行ったときのことで。レストランでオーダーした後、メニューの確認をするとき、一所懸命首を振っているのです。つまり、「OK」「OK」と言っていたのですが知らない人がみたら、「ノー」と思ったことでしょう。習慣とはいえ、日本に帰ってまでやると変に思われるでしょうね。

(美澄)

編集後記

★3月は、プレスツアー、バンコク出張と大きな行事が続き、少々疲れましたが、でも、暫定予算の影響は事務所にも出てきており、4月に入ったとたん仕事に暇になりました。前述の通り、4月13日はボカラのマラソンに出場しました。この準備は、週末のスタジアムや米国大使館のレクリエーション施設のランニングトラックを使って行いました。途上国とはいえ、こうして治安もそこそこ良く走れる環境にある私は幸せです。でも排ガスと土埃は相変わらずつらいです。幸いジアルジアとの共生はスムーズにいており、マラソンへの影響は最小限で食い止めました。さて、4月24日から5月22日まで一時帰国をします関係で、4月5月を合併号として編集いたしました。次はいよいよ始まる雨季について報告させていただきたいと思っています。

(浩司)

★3月は異動の季節でした。ネパール在住の日本人も何名かが帰られました。帰国する場合、後任が来れば家財道具をそのまま譲ることが出来るのですが、後任がいない場合、口コミで知人に売るか、ガレージセール等で処分しなければなりません。私達はこれでかなりの家財道具をそろえ、コテツという可愛い犬ももらいました。お陰で、今では人をお招き出来るようになりました。これからは雨季になり季節が良くありませんが、季節が良くなる秋以降にいらして頂けたらと思います。そのためにも、このサンチャイ通信をちゃんと書かなくてはいけないのですが、書くペースが遅く夫にお尻をたたかれ、誤字脱字を指摘されながら4月・5月合併号をなんとか書き上げることが出来ました。文才のない自分が情けないです。

(美澄)